

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●川田将雅騎手がJRA年間100勝を達成

8月21日(土)の4回小倉3日・第8レースではダノンバジリアが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、自身3年連続7回目となるJRA年間100勝を達成しました。本年の年間100勝はC.ルメール騎手に続いて2人目の記録となります。

### ●三浦皇成騎手がJRA通算1万回騎乗を達成

8月22日(日)の4回新潟4日・第9レースとして行われた閃光特別でステラダイヤに騎乗した三浦皇成騎手(美浦・鹿戸雄一厩舎)は、この騎乗で史上44人目、現役では29人目となるJRA通算1万回騎乗を達成しました。デビューから13年5月22日・31歳8月4日での1万回騎乗達成で、これは北村宏司騎手の13年10月7日・32歳5月20日を更新する史上最速および最年少記録となります。

### ●ノーヴァレンダの競走馬登録抹消

2018年全日本2歳優駿(川崎・Jpn I)の勝ち馬ノーヴァレンダ(牡5歳/栗東・齊藤崇史厩舎)は、8月18日(水)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算10戦2勝・地方3戦1勝で、今後は地方・川崎競馬に移籍する予定です。

### ●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

IFHA(国際競馬統括機関連盟)から「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表(2021年1月1日から8月8日まで)に実施された世界の主要レースが対象(単位はポンド)され、前回首位だったセントマークスバシリカに加え、キングジョージVI世&クイーンエリザベスSを勝ったアダイヤーがトップタイ(127)となりました。日本調教馬は、グランアレグリアが第11位タイ(121)、クロノジェネシス、エフフォーリア、グローリーヴェイズ、シャフリヤールが第17位タイ(120)と、計5頭がランクイン。グランアレグリアは前回に引き続き牝馬トップとなっています。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●クローバー賞(札幌)の北海道所属馬はマナホクの6着が最高

クローバー賞(2歳オープン、8月22日、札幌、芝1500<sup>メートル</sup>)には2頭の北海道所属馬が出走しましたが、後方から差を詰めたマナホクが6着、モリデンブラックは8着でした。

### ●船橋のジョエルが黒潮盃(大井)を圧勝【各地の主要3歳重賞】

黒潮盃(8月18日、大井、1800<sup>メートル</sup>)は、好位の内を走した2番人気のジョエル(牡、父トーセンブライト)が直線入口で逃げ馬を捉えて5馬身差で圧勝し、クラウンCに次ぐ2度目の重賞勝ち。サラブレッド大賞典(8月15日、金沢、2000<sup>メートル</sup>)は、4番手前後から3、4コーナー中間で先頭に立ったベニスビーチ(牝、父ノボジャック)がそのまま押し切り、単勝1.3倍の支持に応えました。イーハトーブマイル(8月22日、盛岡、1600<sup>メートル</sup>)は、3番手から直線に入って間もなく抜け出した2番人気の芝重賞2勝馬マツリダスティール(牡、父エキストラエンド)が後続を7馬身引き離し、ダートでは初めての勝利を収めています。

### ●ラプタスらが出走、9月1日のサマーチャンピオン(佐賀)

サマーチャンピオン(Jpn III、9月1日、佐賀、1400<sup>メートル</sup>)は、58.5<sup>キロ</sup>のラプタスが最有力、59<sup>キロ</sup>のトップハンデを背負うコパノキッキングとサクセスエナジーの2頭が続き、イメル、スマートセラヴィーまでが争覇圏内と考えられます。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1インターナショナルS～ミシュリフが圧勝

8月18日にイギリスのヨーク競馬場で行われたG1インターナショナルS(3歳上、芝2050<sup>メートル</sup>)はD.イーガン騎手を背に7頭立ての4番手を走したミシュリフ(牡4歳、父メイクビリーヴ、J&T.ゴズデン厩舎)が直線で楽々と抜け出して6馬身差で圧勝しました。2着にG2キングエドワードVII世Sの勝ち馬アレンケル、3着には昨年の英牝馬2冠馬ラブが入りました。勝ったミシュリフは昨年のG1仏ダービー(芝2100<sup>メートル</sup>)の勝ち馬。今年に入って世界最高賞金のサウジC(ダート1800<sup>メートル</sup>)とG1ドバイシーマクラシック(芝2410<sup>メートル</sup>)を連勝しましたが、その後はG1エクリプスS3着、G1キングジョージVI世&クイーンエリザベスS2着と連敗。今回が地元イギリスにおけるG1初制覇となりました。

### ●G1ヨークシャーオークス～スノーフォールが快勝

上記G1インターナショナルSの翌日に同じヨーク競馬場で争われたG1ヨークシャーオークス(3歳上牝、芝2370<sup>メートル</sup>)は日本生まれのディープインパクト産駒であるスノーフォール(3歳、愛A.オブライエン厩舎)がR.ムーア騎手とのコンビで後方待機から直線で一気に突き抜けて4馬身差で優勝しました。スノーフォールはこれで16馬身差で制した英オークス(芝2410<sup>メートル</sup>)、8馬身半差の愛オークス(芝2400<sup>メートル</sup>)に続くG1・3連勝です。